

第3期基本計画 (2006-2010年度)

重点推進4分野

- ライフサイエンス
- 情報通信
- 環境
- ナノテクノロジー・材料

推進4分野

- エネルギー
- ものづくり技術
- 社会基盤
- フロンティア

第4期基本計画 (2011-2015年度)

○ 将来にわたる成長と社会の実現

● 震災からの復興、再生の実現

- ・被災地の産業の復興、再生
- ・社会インフラの復旧、再生
- ・被災地における安全な生活の実現

● グリーンイノベーションの推進

- ・安定的なエネルギー供給と低炭素化の実現
- ・エネルギー利用の効率化及びスマート化
- ・社会インフラのグリーン化

● ライフイノベーションの推進

- ・革新的な予防法の開発
- ・新しい早期診断法の開発
- ・安全で有効性の高い治療の実現
- ・高齢者、障害者、患者の生活の質（QOL）の向上

○ 国として取り組むべき重要課題

● 安全かつ豊かで質の高い国民生活の実現

- ・生活の安全性と利便性の向上
- ・食料、水、資源、エネルギーの安定的確保
- ・国民生活の豊かさの向上

● 我が国の産業競争力の強化

- ・産業競争力の強化に向けた共通基盤の強化
- ・我が国の強みを活かした新たな産業基盤の創出

● 地球規模の問題解決への貢献

- ・地球規模問題への対応促進

● 国家存立の基盤保持

- ・国家安全保障・基盤技術の強化
- ・新フロンティア開拓のための科学技術基盤の構築

● 科学技術の共通基盤の充実、強化

- ・領域横断的な科学技術の強化
- ・共通的、基盤的な施設及び設備の高度化、ネットワーク化

科学技術イノベーション 総合戦略2014

重点的課題

● クリーンで経済的なエネルギーシステムの実現

- ・クリーンなエネルギー供給の安定化と低コスト化
- ・新規技術によるエネルギー利用効率の向上と消費の削減 など
- ・高度エネルギーネットワークの統合化

● 国際社会の先駆けとなる健康長寿社会の実現

- ・医薬品・医療機器開発の強化
- ・世界最先端の医療の実現 等

● 世界に先駆けしたインフラの整備

- ・次世代のまちづくりに向けたスマートシティの実現
- ・レジリエントな社会の構築

● 地域資源を強みとした地域の再生

- ・農林水産業を成長エンジンとして育成
- ・地域の活性化につながる産業競争力の強化

● 東日本大震災からの早期の復興再生

- ・住民の健康を災害から守り、子どもや高齢者が元気な社会の実現
- ・地域産業における新ビジネスモデルの展開等

分野横断技術

- ・ICT
- ・ナノテクノロジー
- ・環境技術

○調査概要

- ・第4期基本計画から導入された課題達成型アプローチの審等度合い及びその影響に関する検討を行った。
(無記名式ウェブアンケート、有効回答数1,353 (回答率27%) ; 論文の被引用件数上位の研究者 (生命科学、生体臨床医学、自然科学、技術))
- ・4つの仮説等を設け、これを検証する方式で、我が国のトップサイエンティストに対しアンケート調査を実施した。
- ・研究分野を、研究テーマ (ディシプリン型、ミッション型) 、研究フェーズ (基礎、応用、開発) で分類して、データ整理を行った。

○調査時に設定した仮説等及び調査結果から見た結論

仮説等	結論
1. 課題達成型アプローチは 研究開発現場まで十分浸透 しているか。	研究者の認知や研究体制の変化において、課題達成型アプローチの研究開発は研究開発現場に浸透しつつあるとの結果を得た。
2. 課題達成型アプローチの実施にあたっての 研究環境面での阻害要因 としてはどのようなものがあるか。	阻害要因として、「学術論文の形で成果が出しにくく、評価されにくい」(39%)、「安定的、継続的な運営資金を確保することが困難なため、応募する魅力が薄い」(31%)が挙げられた。
3. 課題達成型アプローチの 馴染まない研究領域や人材育成では、負の影響が生じている のではないか。	基礎研究への影響、人材育成への影響ともに「どちらかという和良好的影響が多い」という回答比率が高かった。
4. 基礎研究分野で 新たな研究領域が生まれている か。	課題達成型アプローチの研究開発によって、基礎研究分野で新たな研究が生まれつつある状況が推察される。